

CONTENTS

大阪消防10

表紙：夜の大屋根リングと万博PI

| | |
|-------------------------------------|--|
| 01：コンテンツ／災害概況 | 26：大阪の消防NEWS |
| 02：特集 第53回 消防救助技術近畿地区指導会 | 28：ココ改善！ |
| 06：2025年大阪・関西万博 ～万博会場は私たちが守ります！～ | 29：次世代のテクニカルレスキューカメラ ～FIRSTLOOK360LR～ |
| 08：共に学び共に成長 | 30：落語DE火の用心 |
| 10：ケイボウタイムズ | 31：自衛消防隊紹介／女性防火クラブだより |
| 12：イクキュー | 32：市民表彰／アニマル環状線 |
| 14：明日に備えて過去に学ぶ | 33：人材育成のヒント |
| 15：No more！事故 | 34：【職務】令和6年中の規制対象物における 火災発生状況（2） |
| 16：Just Do It！ | 36：教えて〇〇課！ |
| 18：コマンドアイ | 37：健康ダイアリー |
| 20：救急いろは | 38：現場に活かす！救急救命士国家試験問題 |
| 22：実録!! 調査鑑識 | 39：消防漢字ガール |
| 24：We are Rookies！ | 40：救急安心センターおおさかだより／編集後記 |

大阪市の災害概況

◎火災概況

| | 建物火災 | | | | 小計 | 車両 | 船舶 | 爆発 | その他 | 合計 |
|---------------|------|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|
| | 全焼 | 半焼 | 部分焼 | ぼや | | | | | | |
| 8月中件数 | 0 | 3 | 14 | 28 | 45 | 4 | 0 | 0 | 9 | 58 |
| 令和7年 8月末累計 | 15 | 14 | 106 | 267 | 402 | 23 | 0 | 0 | 70 | 495 |
| 令和6年 8月末累計 | 11 | 16 | 123 | 255 | 405 | 28 | 1 | 2 | 53 | 489 |
| 累計比較 | 4 | ▲2 | ▲17 | 12 | ▲3 | ▲5 | ▲1 | ▲2 | 17 | 6 |

◎救急概況

| | 救急出場 |
|---------------|---------|
| 8月中件数 (概数) | 23,789 |
| 令和7年 8月末累計 | 177,114 |
| 令和6年 8月末累計 | 180,594 |
| 累計比較 | ▲3,480 |

◎火災・救急以外の消防活動概況

| | 救助活動 | 危害排除 | 水防活動 | その他 |
|---------------|-------|------|------|-----|
| 令和7年 8月末累計 | 3,102 | 880 | 1 | 833 |
| 令和6年 8月末累計 | 3,129 | 869 | 0 | 769 |
| 累計比較 | ▲27 | 11 | 1 | 64 |

陸上の部 第1中隊長
引揚救助



西成消防署
消防司令補
嵯峨 慶彦

「憧れの舞台」。ここにたどり着くため、何度も何度も挫折を味わい、自分のふがいなさを感じ、それに打ちのめされ、それでも諦めることなく憧れ続けた。強化訓練が開始されて約3カ月、挫折や困難を乗り越えて、たどり着くことができた舞台。

この舞台に立つまでには、励まし合い切磋琢磨してきた強化隊員の仲間たち、どんな時も寄り添ってくれた指導員の方々、いつも笑顔で送り出し、優しい言葉で迎えてくれた所属の方々、家事子育てが忙しい中、全力でサポートし応援してくれた家族、様々な「絆」に支えられました。そのたくさんの「絆」は憧れの舞台のスタートラインに立った私たちの背中を押してくれました。

私たちがここで得た、チームワーク、強靱な体力、精神力、知識、技術は必ず災害現場、人命救助に生きると確信しています。

最後に、この訓練に携わって頂いた全ての方々、無償の愛でサポートして下さった全ての方々、本当にありがとうございました。

陸上の部 第2中隊長
障害突破



港消防署
消防司令補
眞野 円志

「やりきった。」

ゴールラインを超えた瞬間、真っ先に浮かんだ言葉です。訓練を始めて、チーム力が高まった矢先の5月、チームの大黒柱の負傷で心が折れかけました。しかし、そこから、新たなメンバーと団結し、徹底的な話し合いと訓練を重ねて挑んだ近畿地区指導会。全国大会出場こそ叶いませんでしたが、障害突破人生を締めくくるにふさわしい、最高の夏となりました。

第2中隊長としても挑んだ今夏。総員63名。それぞれが勝利のために悩み、苦しみ、もがく姿は泥臭くも力強く、本当に誇り高いものでした。強靱な精神力を持つ隊員たちと共に闘えたことは私の誇りですし、訓練開始から隊員たちと励まし合い歩んだ時間は、何よりの宝物です。

この夏、全員が確かな成長を遂げたと感じています。そして、その成長は、必ずや大阪市消防局が今後さらに強くなるための礎となると確信しております。

水上の部 中隊長
人命救助



阿倍野消防署
消防司令補
堤 勇樹

第43回近畿地区指導会に初出場して以来、10回目の参加となった本指導会。振り返れば、酸いも甘いも多くの経験を経て、気づけば中隊長という立場になりました。

この訓練で学んだ大切なことは、まず、目的意識を明確に持つことです。言うまでもなく、本訓練の目的は人命救助。この崇高な任務を強く意識すればするほど、訓練内容はより濃く、厳しさを増します。速さや正確さを追い求め、課題解決へと試行錯誤を重ねていく中、時に大きな壁に直面することもあります。そんな時こそ人命救助という原点に立ち帰ることで、見せかけの速さや形だけの正確さではない、血の通った訓練へと昇華していきました。

次に、大阪救助の覚悟とプライドを胸に、訓練に挑む姿勢です。勝負に勝つこと、それが我々に課せられた使命です。大阪救助の代表であるという自覚は、逆境での踏ん張りになります。

そして、これらの積み重ねが、日々の現場活動への礎となり、自らを磨き続ける原動力となりました。

最後に、私を救助隊員として成長させてくれた水上の部の皆さまに深く感謝します。また、所属の方々、警防課の皆さま、そして何より10年以上支えてくれた妻に、心から感謝を捧げます。



第53回
消防救助技術近畿地区指導会
2025.7.19

令和7年7月19日(土)、兵庫県広域防災センターにて開催された第53回消防救助技術近畿地区指導会に、当局から63名の隊員が参加しました。8月30日(土)に開催される全国消防救助技術大会を目指して、強化隊員たちは日ごろの訓練成果を存分に発揮しました。

複合検索



昨年出場した近畿地区指導会では3位となり、悔いの残る結果となりました。その結果から、今年こそは全国の舞台に立つ、と決心し訓練を見直しました。そこからは、本番の1発勝負でベストパフォーマンスを出すことを念頭に置いて、日々訓練に励みました。タイムが伸び悩む時期もありましたが、隊員同士で改善点を共有し、励まし合うことで前向きに訓練に取り組むことができました。こうした取組により、本番ではベストタイムを出すことができました。

この経験を大切にしながら、これからの消防人生を歩んでいきたいと思ひます。

〈中央消防署 消防士長 菱川 翔太〉

溺者搬送



今回、私は水上の部の溺者搬送で、初めて近畿地区指導会に出場しました。水球の経験があるため、今回の訓練へ立候補しましたが、実際の訓練では自身の力不足を痛感し、悩む日々が続きました。しかし、多数の訓練隊員が励ましの声をかけてくださり、おかげで過酷な訓練を乗り切ることができました。

初めての経験でしたが、この訓練を通して、現場に通ずる強靱な体力をつけることができただけでなく、仲間への心強さを再認識することができました。

この訓練で得られた貴重な経験を活かし、立派な消防人になれるよう、尽力します。

〈東住吉消防署 消防士長 神志那 和樹〉

溺者救助



暑く、熱い夏を過ごしました。まず、無事に訓練をやりきることができたのは、関わって下さった皆様が私たちを支え、背中を押して下さったからです。ありがとうございました。そのような支援をいただき、日々訓練を積み重ねたことにより、私は全強化隊員が心身共に成長できた実感しています。この訓練はそういう場であり、引っ張ってくれる先輩、経験者、信頼できる指導者の方々が必要居る場なのです。訓練の方法、考え方、勝ち方、仲間の大切さ、実際の災害現場に通ずること等、多くを指導していただきました。この場でないと経験できないことであり、その経験から成長できる場だと思います。若手職員の方々には、ぜひ経験してほしいです。

〈東住吉消防署 消防士長 勝丸 大地〉

基本泳法



第53回近畿地区指導会において、「基本泳法」の種目から全国大会へ出場できることになりました。この種目は、他の種目とは違い個人種目の為、モチベーションの維持が難しい期間もありました。しかし、明確な目標を立てること、水上の部のチーム全体で切磋琢磨してきたことが全国大会出場という今回の結果に繋がったと思います。「基本泳法」という種目は今年を最後に廃止されることとなりましたが、大阪市代表として最高の成績を目標に、残りの訓練に取り組んでいきます。全国大会ではチームや所属全員の気持ちを胸に日本一を目指して頑張ります。最後に家族、友人、所属の皆様のご支援とご協力に感謝申し上げます。

〈東住吉消防署 消防士長 高瀬 渉〉

水中結索



第53回消防救助技術近畿地区指導会への出場にあたり、沢山の方々に支援いただきました。ありがとうございました。私は水中結索という3人1組で行う種目に出場しました。本番に向けた、4月下旬からの本格的な訓練の日は、いま振り返るととても充実した期間でした。初めは上手いかわからないことがほとんどで、不安に駆られる日が多くなりました。しかし、救助技術の向上を目的に共に訓練に励んだ隊員達、最後まで信じてくれたチームメイトのおかげで、本番では培った技術を最大限に発揮することができました。

この訓練で培った沢山のことを、日々の消防業務、災害現場活動で最大限に発揮し、市民の期待に応えるべく全力を尽くしたいと思ひます。

〈淀川消防署 消防士長 長船 勇雅〉

人命救助



「勝ちたい」という熱い気持ちを持つ仲間たちとの約3カ月間の訓練を終えました。一つの目標に向かい喜怒哀楽を共にすることは、社会人になると、あまり経験できない、この仕事ならではの貴重な経験だと思います。仲間たちと目標にしてきた全国大会への切符を掴み取ることはできませんでしたが、このような経験ができる環境を提供して頂いているということは本当に幸せなことです。消防人として確実に成長をさせて頂いていることはありがたく、今後の消防人生において大きな財産になると確信しています。最後になりますが、この訓練に関わって頂いた多くの皆様、本当にありがとうございました。

〈天王寺消防署 消防司令補 鍋田 優介〉

水中検索救助



近畿地区指導会の水中検索救助に出場することは、自分にとって大きな挑戦であり、かけがえのない経験となりました。そして、指導会当日までの厳しい訓練や困難を共に乗り越え、互いに高め合いながら挑んだ仲間たちの存在も何よりも心強いものでした。指導会当日は、多くの方々の支えがあってこそ、全力を尽くすことができた実感しています。この機会を与えてくださった職場の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。また、日々支えてくれた家族の存在は、ありがたく、大きな励みになりました。この経験と感謝の気持ちを忘れず、今後も技術と精神を磨き、さらに高みを目指して精進してまいります。

〈天王寺消防署 消防士長 難波 拓人〉

ロープブリッジ渡過



昨年、全国大会で1位を取った大先輩の背中を追い掛けて臨んだ、第53回近畿地区指導会。初出場の3人を含め、今年度の全国大会出場は厳しいのではないかと、周囲から厳しい言葉を掛けられながら、日々の訓練を行ってきました。

訓練期間中は、大阪市消防局の名前を背負う重圧も相まってタイムが伸びない時期が何度もありました。それでも、指導員の熱心な指導を受けて、仲間と切磋琢磨し、ロープブリッジ渡過の全国大会出場の切符を手に入れました。携わっていただいた全ての皆様の協力なしにはこの舞台に立つことはできなかったと思ひます。

この夏の経験は、今後の消防人生においても大きな財産であり、宝です。心より感謝申し上げます。

〈西淀川消防署 消防士長 石塚 智〉

はしご登はん



私が近畿地区指導会に初めて出場した12年前から数えて、今大会は6度目の挑戦でした。結果は自分の目標としていた所には届きませんでしたが、最高の訓練をすることができ、悔いはありません。それも全ては、家族や事務局、指導員、所属の方々、運営や要員の方からの支援や応援、また直接的にも見えないところでも尽力してくれた全ての方が作ってくれた、最高の環境のおかげだと感じています。最後に、共に訓練期間を過ごした隊員たち、ライバルでありながらも切磋琢磨しお互いを高めあうことができた、はしご登はんの仲間たち、関わってくれた全ての方に感謝とリスペクトを込めて。本当にありがとうございました。

〈西成消防署 消防士長 小間 達哉〉

ほふく救出

この数カ月間は、チームリーダーとして、チームをまとめることの難しさを実感した期間でした。チームのバランスは良くても、思うようにタイムが伸びず、雰囲気が悪くなる場面が幾度もありました。しかし、そんな状況でも下を向かず、前を見続けることができたのは、指導員をはじめ、周囲の方々の支えのおかげです。そのすべてが、悩み、苦しみながらも、チーム全員が本気で駆け抜けた道のりだと感じています。結果を残すことは出来ませんでしたが、中隊長の「災害現場であと1歩を踏み出す力」という言葉のように、この経験は、まさにその力へと繋がっていると信じています。ご支援、ご指導いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

〈東成消防署 消防司令補 新山 雅浩〉



ロープブリッジ救出



今回の近畿地区指導会は、ライバルたちの高い技術と情熱に触れ、自分もさらに成長していきたいという強い思いを抱くことができ、大変貴重な経験となりました。

この場に立つことができたのは、共に切磋琢磨してきた仲間や同僚、そして日々の訓練を見守り応援して下さった方々の存在があってこそだと思っています。改めて感謝の気持ちを伝えたいです。私たちの訓練に携わって下さった皆さん、本当にありがとうございました。これからも初心を忘れず、技術と心を磨き続けていきます。

〈住吉消防署 消防司令補 森田 祥平〉

ロープ応用登はん



このたびロープ応用登はんの登はん者として出場しました。結果は全国に届かず悔しさも残りましたが、この舞台に立てたことは大きな経験となりました。日々支えてくれた所属の職員の方々の皆さま、強化隊員、指導員、応援・ご支援くださった全ての方々、そして大阪市消防局全体のご協力に心から感謝申し上げます。

年齢に関係なく、挑戦する気持ちと「諦めない心」があれば、まだまだ前に進めると実感しました。また来年、さらに成長した姿で挑戦したいと思います。本当にありがとうございました。

〈天王寺消防署 消防士長 田中 康博〉

障害突破

「大阪」の誇りを胸に全国大会出場という目標を掲げ、本番一発、5つの障害に立ち向かい、最高の形でゴールラインを突破するために、チーム一丸となって全力で近畿地区指導会へ挑みました。

約3カ月の訓練期間をチーム全員が同じ目標に向かい熱い気持ちを持って指導員の方々のサポートを受けながら全力で駆け抜けました。チームメイトはもちろん、そんな最高の仲間たちと過ごした、この強化訓練での経験は私にとって最高の宝物です。

この指導会に携わっていただいた方々や、所属の方々、また家族のサポートがあったからこそ、指導会本番という最高の舞台に立つことができました。心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

〈東淀川消防署 消防司令補 武田 耕作〉



NBC災害対応訓練

万博会場内と市内災害とで、活動が大きく変わるのがNBC災害です。特別警戒時は17隊が万博消防センターに移動配備をしています。市内に残っている隊の到着は15分から20分程度かかってしまったため、初動時の消防力が劣勢になります。NBC災害対応訓練では、パビリオン内で毒劇物等が撒かれたという想定訓練を行い、検知、サンプリング、要救助者搬送等を行いました。消防力が劣勢の中でも対応できるように訓練を重ねることで一人一人が活動を理解することができました。



大屋根リング訓練

大屋根リングの構造は全て頭に入っています。



大屋根リング訓練では、ホースの延長訓練や高所作業車の架梯訓練を行いました。大屋根リングには8つの階段と5つのエスカレーター、6つのエレベーターがあり、大屋根リング上はスロープにより上下が分かれていますが、災害点によりどこから上るかを短時間で正確に選定できるように意識しながら訓練を行いました。



集団災害訓練

大阪・関西万博の来場者は連日10万人を超えており、20万人を超える日も出てきているため、すべての災害が集団災害になりうる可能性があります。夏場は熱中症による集団災害も考えられるため、大阪ヘルスクアパビリオンとカナルパビリオンでは、多数の傷病者がいる想定で集団救急・集団救助の訓練を行いました。訓練では、スタッフに負傷者役をお願いし、実災害に即した形式をとれたことで、指揮能力や各隊の連携力が向上しました。



水難救助訓練

水難救助訓練は、「つなぎりの海」で行いました。「つなぎりの海」は万博会場の南側に位置しており、水深は1番深いところで3mあります。海中には水質改善用の水中ミキサーや電気配線などの危険箇所が多くあり、細心の注意を払い、訓練を行いました。出場からボート組立までを迅速かつ安全に実施し、航行時は危険箇所にも巻き込まれないよう注意したことで、水難事案発生時の初動確認と、ボートの操船技術を向上させることができました。



皆さんこんにちは！朝夕は過ごしやすくなりましたが、日中はまだ汗ばむ暑さですね。お変わりなくお過ごしでしょうか。今月号では、大阪・関西万博消防センター（以下、「万博消防センター」という。）での取組の一つである「会場内訓練」についてご紹介いたします。万博消防センターでは、万博開催期間中に複数回に渡り、様々な訓練を実施しました。「会場内訓練」とは、来場者の方々に安心して大阪・関西万博を楽しんでもらうため、万博会場内で発生する可能性のある、あらゆる災害に對し万全を期し、開場時間外にパビリオンや大屋根リングなどで行う訓練のことです。博覧会協会職員やパビリオンスタッフの方々に協力していただき、実現することができました！



会場内訓練

パビリオン火災想定訓練

この訓練にご協力いただいた、ドイツパビリオン、ブルガリアパビリオン、チエコパビリオンでは、パビリオンスタッフによる初期消火訓練、避難訓練や通報訓練も行いました。協力いただいたパビリオンでは、すべての外国人スタッフが日本語を話せるわけではないことから、情報収集やコミュニケーションをとることは容易ではありませんでしたが、実災害に即した訓練を行うことができました。



実際のパビリオンを使用した火災想定訓練では、消火隊と救助隊が連携した、パビリオンでの主火力制圧と要救助者救出や、各パビリオンスタッフの災害時の初動対応を警備員とともに確認するなど、建物ごとの特性に応じた対応を学ぶことができました。

また、パビリオン内の来場者導線を案内していただき、避難経路や避難口の位置を事前に確認できたことで、重点検索ポイントや、ホース延長経路を隊内で共有することができ、各パビリオンごとに活動方針を決めることができました。複雑に区画されたパビリオンは、市内の住宅等の一般的な建物とは違うため、今回のホース延長訓練や検索訓練は、隊員の技術向上に繋がりました。



おわりに

会場内訓練では博覧会協会職員やパビリオンスタッフの方々の協力により様々な訓練を行うことができました。外国人スタッフの方にも協力いただき、海を越え、国境を越えて人と人とのつながりを感じることができました。

大阪・関西万博は、10月13日をもって閉幕いたしますが、今回の訓練で培ったことや得られたことを所属に持ち帰り、今後の消防活動に還元することまでを視野に入れ、万博消防センター職員一同、この「会場内訓練」に取り組ませていただきました。

残りの期間も、来場者の皆さまに安全安心な万博を楽しんでいただくため、訓練での経験を活かし、いざという時に前線で活躍できるように、閉幕まで駆け抜け、守り切ります!! 来月は、大阪・関西万博の準備期間から閉幕までの万博消防センターの活動を振り返ります。

共に学び 共に成長

皆さん、内外部を問わず様々な研修を受講されるかと思いますが、研修で得た知識を自分だけのものにしていないのがもったいないと感じたことはありませんか？
このコーナーは、研修受講者が研修の良かった点や他の人に伝えたいと感じたことを紹介し、皆さんと共有するコーナーです。共に学び共に成長しましょう！



予防部規制課
消防司令補 辻本 健太

第4回 専科教育「危険物科(第19期)」(総務省消防庁消防大学校)

はじめに

令和6年8月29日から同年10月1日まで、総務省消防庁消防大学校において、専科教育「危険物科(第19期)」を受講しました。

消防大学校は東京都調布市にあり、消防事務に携わる職員等の消防関係者に対し、幹部としての教育訓練を行う国の機関です。今回、私が受講した危険物科では、「危険物保安に関する高度な知識及び技術を専門的に修得させるとともに、教育指導者等としての資質を向上させる」ことを目的として、様々な教育訓練が実施されています。

消防大学校での生活

危険物科第19期生は、北は北海道から南は鹿児島まで、全国各地から集まった計30人からなります。6名ずつ5班に分かれ、敷地内にある寮及び食堂にて、約1カ月間、寝食を共にして学びました。

研修は土日祝を除く9時からですが、毎朝6時45分から通常点呼があるため、遅くとも6時30分には起床し準備完了していました。通常点呼後には朝食をとり、身支度を整えて午前の研修を受講。昼食後に研修を再開し、研修が終わる16時50分以降は自主活動の時間という生活サイクルでした。6人1部屋の寮には、施設可能な個別の寝室だ



危険物科第19期生

入校時の最年長45歳、最年少29歳の同期生30人。
仕事での疑問を気軽に相談できる、最高の仲間です！

けでなく共用の談話スペースがあり、そこでの時間の過ごし方には、班毎のカラーがありました。私が所属した班の場合は、夕食が終わると早速、寮室にて各学生の地元の食べ物や飲み物で交流を深め、良い頃合いになると法令集や貸与されたパソコンを開き、深夜まで危険物規制について何時間も議論するという、危険物保安漬けの毎日を過ごしました。知識の共有もさることながら、全国に同じ志、同じ悩みを持ちながら必死で頑張っている仲間がいることを知り、熱い気持ちが入り込んできたことが、今も思い起こされます。

印象に残った講義

ここでは、消防大学校で学んだ研修のうち、特に印象に残っている二つの講義をご紹介します。

■金属腐食及び防食

この講義では、電解質や水分を含んだ土壌中で異種の金属が接続された場合、イオン化傾向が大きい方の金属だけが強く腐食していくことや、土壌とコンクリートの双方に接触させた金属配管では、アルカリ性であるコンクリートが



金属腐食及び防食

土壌はほぼ中性、コンクリートはアルカリ性のため金属配管に電流が流れ、土壌側がイオン化し腐食します。

電流を生じさせることから、土壌に接触している側が強く腐食していくこと等を、実験を通して学びました。

危険物担当の経験がある方には馴染みがあると思いますが、「電気防食」とは、腐食させたくない金属製タンクと、それよりもイオン化傾向の大きな異種金属を敢えて電氣的に接続することにより、腐食を防ぐ措置のことです。地下に埋設されたタンクや配管を腐食から守るため、「電気防食」は大阪市内でも多数施工されています。

危険物事故防止の観点のみならず、電流が生じるメカニズムを知ることができる、非常に意義のある講義でした。

■ボイルオーバー異常燃焼現象

燃焼中の油に注水すると危険な異常燃焼（スロップオーバー）が発生することは、皆さん御存知かと思いますが。ボイルオーバーとは、危険物タンク火災の発生後、燃料層に生じた高温層が、雨水の浸入などにより溜まっていたタンク底部の水に触れ、その水が突然沸騰して爆発的な火災になる現象のことです。

消防大学校の充実した施設があつてはじめて可能になった大掛かりな体験型講義であり、映像を見ただけでは理解できない、五感で学ぶ貴重な実体験となりました。



ボイルオーバー異常燃焼現象

着火直後はタンク内でのみ燃焼していましたが、しばらくして底部に溜まっていた水が沸騰すると、破裂音と共にタンク外に炎が激しく飛び散りました。

おわりに

危険物科は消防大学校の学科の中では比較的短期なものです。それでも1カ月以上、職場や家庭に穴を空けることとなりました。

上司や同僚の皆様、そして家族に大きな負担をかけながらも入校し、学ばせていただいた消防大学校。そこで得られた有意義な経験・知見・人脈を、大阪市消防局の一員として市民や事業所、職員と共有し、危険物施設の事故や災害現場での職員負傷の防止などに繋げ、大阪市の安全・安心に貢献できるよう、努めていきたいと思っております。